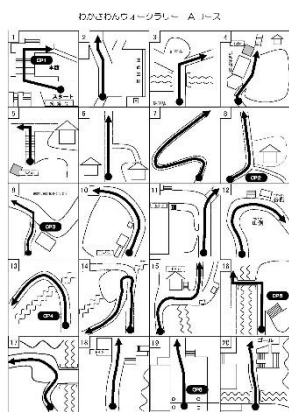


時期	年間通して	時間	半日程度(約2H程度)
難易度	★★★	対象	どなたでも



# わかさわんウォークラリー

## (WR)



この地図はP(スタートポイント)からゴールまで、道の標識を読みながら、あなただけの道を探る。自分も楽しむことが目的。

Q-P1 道は、スタート地点から、道標をたどって行きます。この道標の標識は、自然の中をたどるようになっています。

Q-P2 この道の分岐点や建物の標識のマークは、何ですか？

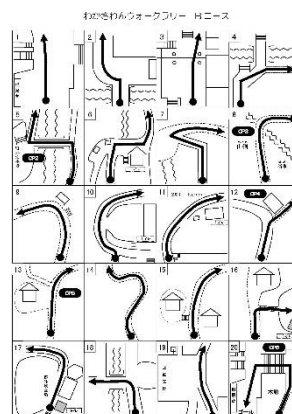
Q-P3 この道は、自然の中をたどるようになっています。標識、この道標の標識は、自然の中をたどるようになっています。

Q-P4 この道の分岐点や建物の標識のマークは、何ですか？

Q-P5 この道の分岐点や建物の標識のマークは、何ですか？

Q-P6 この道は、自然の中をたどるようになっています。標識、この道標の標識は、自然の中をたどるようになっています。

■ マーカー  
スタート地点 ( ) 樹  
分岐点 ( ) 水  
建物の標識 ( ) 建物  
自然の中をたどる ( ) 自然



この地図はP(スタートポイント)からゴールまで、道の標識を読みながら、あなただけの道を探る。自分も楽しむことが目的。

Q-P1 この道は、スタート地点から、道標をたどって行きます。この道標の標識は、自然の中をたどるようになっています。

Q-P2 この道の分岐点や建物の標識のマークは、何ですか？

Q-P3 この道の分岐点や建物の標識のマークは、何ですか？

Q-P4 この道は、自然の中をたどるようになっています。標識、この道標の標識は、自然の中をたどるようになっています。

Q-P5 この道の分岐点や建物の標識のマークは、何ですか？

Q-P6 この道は、自然の中をたどるようになっています。標識、この道標の標識は、自然の中をたどるようになっています。

■ マーカー  
スタート地点 ( ) 樹  
分岐点 ( ) 水  
建物の標識 ( ) 建物  
自然の中をたどる ( ) 自然

### <活動の概要>

ウォークラリーは、仲間と協力しながら、コマ図を頼りに、自然の中を進んで行く活動です。進んで行く方向や周りの自然をよく見ながら、歩く楽しさを感じてもらいたいです。

使用するコマ図は、歩くルート上の分岐点や建物などを図で表し、スタートからゴールまでの道順に配列した地図のことで、実際の様子と一致しているか、向かう方向が合っているかを班のメンバーと話し合っ進んでいくことが大切になります。規定時間を設け、その時間との誤差をポイント化するとともに、問題の得点で順位を決めることができます。

独立行政法人国立青少年教育振興機構

国立若狭湾青少年自然の家

## 活動のねらい

- コマ図を読み解いたり、問題に答えたり、仲間と協力して課題を解決しよう。
- 自然の中を歩きながら、普段は気づかないようなことを発見しよう。
- 起伏のある道を歩きながら、安全な歩き方や体の使い方を体験しよう。

## 準備物

自然の家で準備しているもの	団体に準備するもの
ウォークラリーマップ……………必要数	筆記用具……………必要数
指導者用コースマップ……………必要数	帽子、タオル、水筒など
無線機……………各団体2台程度	

## 事前準備

- コースは必ず下見を行い、危険箇所等を事前にチェックしておく。
- スタートとゴールは、つどいの広場としているが、他団体も使うことがあるので、事前打ち合わせ等で確認しておくとうい。
- ウォークラリーマップを参考に、引率者の配置は計画的に行い、緊急時の連絡方法も確保しておく。
- 活動は班単位で行うことを想定している。班の人数は、4人～6人程度が望ましい。
- 当日の進行や集合場所、採点方法、進行手順なども検討をしておくとうスムーズに活動できる。

## ★ポイント★

- ・ 複数班で活動する場合は、班ごとに約5分程度間隔をあけてスタートするとうい。
- ・ Aコースとその逆のBコースを併用することで、スタート時間を短縮できる。

## 手順

### 活動前

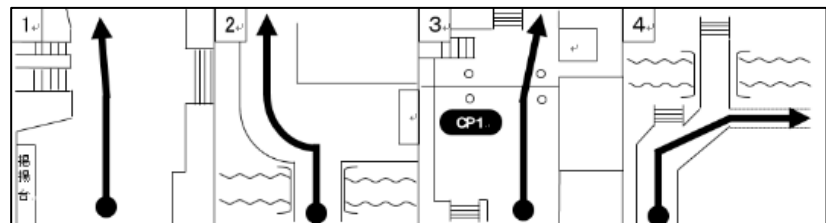
- トイレを済ませて置くように指示する。
- 健康状態や持ち物を確認をする

### 活動の説明

- ① ウォークラリーのコマ図の見方について指導をする。※【コマ図の見方】を参照
- ② コマ図上にチェックポイント(CP)と記してあるところの問題を解きながら、先へ進むことを指示する。
- ③ 得点の計算方法をあらかじめ伝える。
- ④ 班でまとまって行動する、コマ図をきちんと確認しながら進む、舗装路を通る時は車に十分注意するといった重要なルールを徹底する。

#### 【コマ図の見方】

- コマ図とコマ図の間隔は、すべて一緒ではない。また、コマ図の上が北とは限らない。
- コマ図自体は抽象的なものなので、道路幅やカーブが、実際の道と必ずしも一致していない。また、広場や建物についても、正確な形ではない。
- 舗装路は実線で、砂利道や山道は、破線で示している。
- コマ図●印が自分たちがいるところで、矢印の方向に向かって進んで行く。
- コマ図をお腹の前に持って、ぐるぐると地図と一緒に回ってみて、目の前の道や風景、建物の配置が、一致しているかを確認することが大切である。



#### 【採点方法の案】

- ◆ チェックポイントは全部で6つ、回答欄は10あるので、例えば、回答欄1つにつき、5点とし、50点満点とする。
- ◆ 制限時間を設定し、その時間から早すぎても、遅すぎても減点されるようにしてもよい、時間得点を50点とし、1分前後するごとに、1点マイナスされるようにすると差がでやすくなる。
  - ※ 規定時間は引率者で設定するが、参加者には伝えないようにしてもよい。
  - ※ どの時点でゴールなのかをはっきりとさせておくとよい。例えば、全員がそろって、〇〇先生のところでチェックをしてもらったらゴールとするなど。

### 活動後

- 班ごとに人数と健康状態(ケガがないかどうかなど)の確認をする。
- 問題の正解数や規定時間との誤差を計算し、班の得点を算出する。

## コースマップ

自然の家の周辺を

一周するコースを設定しています。

### Aコース

つどいの広場から島の越野外炊事場を通り、取付道路に上ります。そこからトビーホールに下って自然歩道に入り、岩の沢野外炊事場から海に降りていくルートです。

### Bコース

Aコースの逆コースです。スタート後は、つどいの広場から岩の沢野外炊飯場方面に進んでいきます。



## ふりかえりの視点

- 協力して、コマ図を読み解いたり、問題に答えたりすることができたか。
- 自然の中を歩きながら、発見したことや気づいたこと、面白いと思ったことを共有する。
- 下り坂や登り坂など起伏のある道を歩くことと、平らな道を歩くことはどんな点が違うのか。
- 自然の中に身を置くことで、感じたことや思ったことはどんなことか。

## 指導上の留意点

- 「注意を要するポイント」で道を間違ってしまうと、自然の家から遠ざかって行ってしまうので、引率者にこの場所にいてもらうことが望ましい。
- コマ図は、上が北とは限りません。コマ図を体の前に持って、ぐるぐる回りながら、周辺の道や建物と一致する方向を見つけて、矢印に沿って進んでいくことをきちんと練習してスタートするとよい。



国立若狭湾青少年自然の家 プログラム集 山活動編

作成：平成31年4月 国立若狭湾青少年自然の家 〒917-0198 福井県小浜市田島区大浜

執筆：齋藤 雄（企画指導専門職）